

62 ヨハネ 19章 17-30 節

※いよいよイエス様の十字架刑の場面です。ただヨハネはマタイやルカのように十字架刑の苦しい描写をかなり簡略にしているように思われます。しかし、ヨハネの福音書には他の福音者には記されていない十字架上での優しい心遣いや、預言の成就のキーワードなどが教えられています。

1、イエス様が十字架にかけられたゴルゴダと呼ばれている場所の別名は何ですか？ (17)

※それは当時その丘がそのような形に似ていたゆえにそう呼ばれたとか、処刑に使われていた場所であるがゆえにそう呼ばれたとか言われています。しかし現在その場所は特定されていません。つまりそういう丘は現在存在していないそうです。ただ、十字架刑のあと釘などの聖遺物が発見された場所という所に今は聖墳墓教会が建てられています。

2、ヨハネの福音書には、ピラトがイエス様の十字架に罪状書きを掲げたことが記されてあります。

・なんと記されましたか (19)

・いくつかの言語で記したとありますが、何語ですか？ (20)

※ヘブル語は、ユダヤ人へのメッセージであり、ラテン語、ギリシャ語は異邦人（全世界の人々）へのメッセージとも言えます。

・これに対してユダヤ人祭司長たちはピラトに何と申し出ましたか？ (21)

・それに対してピラトの返答はどのようなものでしたか？ (22)

※ここにユダヤ人に押し切られて、不本意な裁判をしてしまったピラトの意地が垣間見られます。本当はこのように言って、イエスをむち打ち刑だけにして解放することが出来たはずだったのです。でもなぜかできなかった。ここに神様のご計画と働きには人間は何もできない事が垣間見られます。そこで見せたピラトの最後の意地なのです。

3、この後の十字架の場面でのいくつかの出来事は、以前から聖書（旧約聖書）で預言されていました。今一度その箇所を読んで黙想しましょう。

・十字架での辱め、苦しみ

・また兵士たちがイエス様の衣を分け合い、その一つはくじ引きにするという出来事

・イエス様が「わたしは渇く」と言われたこと

イザヤ 53 章、詩篇 22 篇 1-18、詩篇 69 篇 21 節

※イザヤは預言により語り、ダビデは自分の苦しみの描写がキリストの苦しみの描写として後世に語られていたのです。

4、十字架のそばにまで一緒にいた女性たちのことを見てください。

・イエスの母マリア ・その姉妹 ・クロパの妻マリア ・マグダラのマリア

・その姉妹って誰？ クロパの妻のマリアって？どんな人？以下の御言葉を読みながら、推察してみましょう。

(マタイ 27:56) (ルカ 24:18) (マルコ 15:40) (マタイ 20:20,21)

5、イエス様は十字架上で、残される母マリアへのいたわりを見せました。

・マリアには、他に実の子たちがいました。(マタイ 13:55,56) (ヨハネ 7:2-7) 「使徒 1:14」

・なのになぜ、弟子であり、いどこであるヨハネに託したのでしょうか？意見を出し合ってみましょう。

6、このところから神様（父、子、聖霊）はどのようなお方であるとわかるでしょうか。